



国際交流員の活動日誌

vol.66



トニー



ララ

「水田」 Rice Paddies

僕は9月の黄金色の水田が大好きです。もちろん、田植季節の青空を映す田んぼや真夏のそよ風と踊る稲も美しいと思いますが、黄金の爽りで頭を垂れる稲穂は最も美しい姿だと思います。

僕は水田の風景だけではなく、自然の生命がたつぷりあるところも好きです。水田に住む虫やカエル、それを食べる美しいサギが素敵です。また、農家さんによつては鯉やアイガモを稲が育つ水田に放つと聞いた

事があります。

アメリカでは子どもの時から、自然の美しい風景は人間の手で無くなり、手つかずの自然は何よりもきれいとよく聞いていました。しかし考えると、庭園などは、自然の美しさがあり、人間が手入れするほど美しくなります。水田も同じだとわかりました。手入れされた9月の黄金色の水田はとても美しいです。

日本の水田に学んだ事は、本当の美しさは人間が自然と協力する時に出ることです。アメリカでよく見つけられる明媚な大自然は素敵ですが、人が手入れすると自然の良さを残したまま更に美しくなることができます。収穫の季節に向けて、日本の美しい水田で作業をされる農家の方々、いつもありがとうございます！

(トニー)

地域の魅力 ふる里再発見

松前・梁川藩から館藩へ - 1 - ～松前藩とは～

令和4年度第2回企画展

松前・梁川藩から館藩へ

9/4日～12/26日

伊達市保原歴史文化資料館

梁川藩(松前氏) 支配地



文化4(1807)年
～文政4(1821)年

- ①梁川村
- ②大門村
- ③泉沢村
- ④金原田村
- ⑤大久保村(現福島市飯野町)
- ⑥西五十沢村(現川俣町)

- 伊達市役所
- ▲ 梁川総合支所
- ◆ 川俣町役場

今年、松前氏が復領し梁川から離れて200年の年です。

松前氏は、現在の北海道松前町周辺を領知した大名ですが、文化4(1807)年、蝦夷地(現北海道)を幕府に取り上げられました。理由は資料によりさまざまですが、幕府が蝦夷地を直接支配して、北方警備を強化する方針をとったことが理由と考えられます。

松前町周辺の代わりに松前藩主松前章広に与えられた領地は梁川に9千石(図①～⑥)と常陸国などを併

せて1万8千石でした。この国替えは、蝦夷交易の運上金により数万石の大名であった松前家にとって、非常に厳しい内容のものでした。

そのこともあり、梁川に転封された松前氏は、まず財政難に直面し、収入は家臣団を賄えないほど激減しました。やむなく6割以上の家臣を除籍しやつのことで梁川に連れてきました。

それからの松前氏は幕府や公家に蝦夷地への復帰を働きかけ続けました。その努力が実ったのは移封から14年後の文政4(1821)年で、梁川藩は廃藩となりました。

その後、梁川は幕府の直轄領となりましたが、安政2(1855)年に再び松前家の飛領となり、明治4(1871)年に福島県に属するまで、館藩、ついで館県の一部でありました。

※藩主は同じく松前氏